

はなみずき

病院理念

私たちは安全で良質な医療、
心のこもった看護・介護、地域社会との連携を目指します。



看護 フェスティバル

第1回 看護フェスティバルを開催しました!

開催によせて

5月12日は「看護の日」です。ナイチンゲールの生誕を記念して制定されています。当院では、今回初めて看護の日に合わせて、看護フェスティバルを開催しました。地域の方に向けて、血圧や血管年齢、骨密度、体力測定を実施しました。

地域の皆様と触れ合える貴重な時間は職員にとっても幸せな時間となりました。医療従事者として、健康に暮らすことの大切さを皆さんと考える時間にもなりました。

また、地元のキッチンカーの皆様にもご協力いただき、フェスティバルを盛り上げていただきました。お天気は、テルテル坊主の力を借りて曇り空でしたが、職員の心は達成感で快晴でした!!

ご参加いただきました地域の皆様、協力いただいた職員に心より感謝申し上げます。

病院が地域の皆様にとってより一層頼れる存在となれるよう頑張ります。

(看護部長 吉村 紀代)



認知症の高齢者は年々増加傾向です。介護人材の不足や老々・認知介護、独居の方の増加が予測され、家族の支援に限られる中、地域でどう支えるかが課題だといわれています。一人一人が認知症を自分事として理解し、自分らしい暮らしを続けていくためにはどうしたらよいか考える時代が来ています。

今回「認知症を自分事として考える」という視点から「認知症の早期発見、予防、認知症になっても困らず生活できる工夫」についてお伝えさせていただきました。簡単ではありましたが、今後のことについて考えるきっかけとなれば幸いです。

(認知症看護認定看護師 小西奈美)



30名くらいの方が体験♪
ケアの大切さ、人と触れ合いの温かさを
感じる時間でした。



ハンドマッサージ体験者の声

- ・ハンドマッサージ、普段からも定期的にやってほしい。
- ・手を触るだけ気持ち良いことが分かったので今度家族にもやってみる。
- ・手がこんなに疲れているなんて気が付かなかった。軽くなった。

各ふれあい・体験ブース、大盛況でした!!



血圧測定



トコロんも
遊びに来て
くれました♪

所沢市
イメージマスコット



骨密度測定



筋力測定では70名くらいの方が
参加して下さいました♪



大人気!

参加したスタッフの感想♪

チラシや案内を聞いて興味を持って足を運んでくる方もいて、来場者の笑顔がたくさん拝見することができてとても嬉しかったです。皆さん健康であること、自分の身体の事を知ること、生活習慣の見直しをしたいと思う向上心をお持ちで、どのようにサポートしていくかを考えさせられる時間でした。看護フェスを通して地域の方々と触れ合える良い機会でした。



キッチンカー
大好評でした♪





看護の日が 生まれたきっかけ



今回看護フェスティバルを開催するきっかけとなった「看護の日」。日本では1990年に旧厚生省(現・厚生労働省)により正式に定められました。

そのきっかけをつくったのが、ノンフィクション作家・中島みちさんです。彼女は、自身の乳がん手術を機に医療の質や安全について関心を持って作家活動を始め、医療現場が直面する課題をテーマとした作品を多く執筆された方です。アメリカで制定されていた「看護師の日」の存在を知り、看護の

心、ケアの心を、男女関係なく等しく分かち合い、特に21世紀の高齢化社会を担っていく子供たちにも、その心をはぐくんでいきたいという強い願いから「日本でも看護の心をたたえる日が必要だ」と強く感じました。そして1982年、「看護の日の制定を願う会」を立ち上げ、多くの有識者や市民の賛同を得ながら、約8年にわたり働きかけを続けました。

この活動には、医師の故・日野原重明氏やドラマ「渡る世間は鬼ばかり」で知られる脚本家の橋田寿賀子氏、作家の柳田邦男氏など、幅広い分野の著名人も参加。看護の重要性を広く社会に伝えるべく、さまざまなかたちで後押ししました。

「看護の日」に込められた「看護の心」とは、家庭の中の肌と肌の暖かなつながりのある世話(ケア)の心、地域社会の相互の助け合いの心、医療者が行う患者様一人の人間へのケアの心を大切にしたいという願いが込められています。この「はなみずき」でもその思いを受け継ぎ、看護の心を皆様にお届けしていきたいと思ひます。

(文／総務課 前田)



エレベーターの更新工事が無事完了いたしました。

ご来院の際にはご迷惑をお掛けいたしました。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

- 当院は開設25年を迎えており、今後も施設・設備のリニューアルを行っていく予定です。引き続きご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

編集後記

看護フェスティバルの参加を通じて、「ゼロからイチを作る」ことの大変さと面白さを改めて実感しました。準備段階では想定していたこと以上に当日良い案が出てきたり、試行錯誤の連続でしたが、当日を迎え、参加者の笑顔や感謝の言葉に触れた瞬間、その苦勞が報われるような達成感がありました。業務ではなかなか得られない経験を通して、総務課としての新たな視点や学びも得ることができました。貴重な体験に感謝しつつ、今後の業務にも活かしていきたいと思ひます。

(文／総務課 相馬)

